



医療法人社団唱和会 明野中央病院

2008年度 年報 vol.2



当院2階 ウッドデッキ

## ご挨拶



院長 木下 昭生

明野中央病院は、昭和49年（1974年）の設立以来、今年で設立35年を迎えます。昨年度をふりかえりますと、診療部では、整形外科での手術数の増加、看護部では7：1看護の確立、回復期リハビリ病棟の充実など病院の根幹にかかわる部分に力をそそぎました。また、地域住民や入院患者さんを対象とした高橋淳さんの講演会、吉田寛さんや県南落語会の皆さんの講演会等を行い大変好評を得ました。今年も、昨年に続き業績集を発刊することができました。是非、御一読いただき、皆様方のご批判をいただければと存じます。

### 病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

### 基本方針

- 一．家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一．地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一．患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一．たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一．地域の健康増進・病気の予防に努めます

医療法人社団唱和会 明野中央病院



## 目 次

ふくろうの会	1
ボランティアの会	3
病院沿革及び概要	5
職種別職員数	7
設備の概要	7
組織図編成表	8
2008年度事業報告	9
活動報告	
<診療部門>	
内科	14
整形外科	16
消化器科	19
<診療補助部門>	
リハビリテーション部	20
診療情報管理室	23
薬剤部	24
臨床検査科	25
放射線科	30
栄養科	31
医療安全管理部	33
ちょっと一息①	35
<看護部門>	
看護部	36
2病棟	40
回復期リハビリ病棟	42
手術室	44
外来	47



<支援部門>

訪問看護ステーション・ふくろう	4 8
居宅介護支援事業	5 0
医療福祉相談部	5 1

<事務部門>

事務部	5 3
医事課	5 5

ちよっと一息②	5 6
---------	-----

<委員会>

医療事故防止委員会	5 7
医療ガス安全委員会	6 0
感染対策委員会	6 1
情報管理委員会	6 3
IT委員会	6 4
倫理・個人情報保護委員会	6 5
褥瘡・栄養対策委員会	6 6
労働安全衛生委員会	6 9
広報委員会	7 1
サービス向上委員会	7 2
教育委員会	7 4
図書委員会	7 5
クリティカルパス委員会	7 6

ちよっと一息③	7 7
---------	-----

<その他>

NST	7 9
糖尿病会	8 1
親和会	8 2
新聞記事	8 4

## 地域交流会（ふくろうの会）

会長挨拶 明野旭町会長 古川 慶吾 様

2004年の9月に明野中央病院地域交流会（ふくろうの会）を結成しました。

木下病院長をはじめ職員の皆様には、明野地区住民の医療と健康に日夜献身ご努力いただき、心よりお礼申し上げます。明野の住民を代表してこの「ふくろうの会」を結成いたしました。病院の現状と地域の医療ニーズを調整、議論する重要な役割を担っていると自負しています。

「私たちの病院」にはこのようにあってほしいとの思いから、病院長には耳の痛い苦言を申し上げることもあるかと思いますが、明野の「地域力」を育てるためとどうかご理解くださいますようお願いいたします。貴院は明野で唯一の一般病院です。今後とも、地域のセイフティーネットとして、明野地区27,000人の医療と健康を守るため、病院と地域の更なる連携体制の構築を願って止みません。

### 1. 設立目的

当院は病院理念に、医療介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に奉仕するを掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努めております。

さらに今後も真に地域に根ざした医療機関として皆様方の期待に応えられる病院としてあるべき姿を模索しております。

そこで、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、今後の地域の病院として医療機関の果たす役割等についてご意見を聞きたく設立しました。

2004年9月発会。

### 2. メンバー 2008年4月1日現在

古川 慶吾 様（明野旭町会長）

中山 満 様（明野日の出町会長）

湯田 国男 様（明野さつき町会長）

松永 洋平 様（明野高尾会長）

中上 弘二 様（明野東町会長）

四井 昇 様（患者様代表）

長尾 正晴 様（当院 OB 代表）





## 第10回 明野中央病院・地域交流会（ふくろうの会）

平成20年8月27日(水) 12:30～13:30

1. 院長あいさつ
2. 昼食 ・ 検食アンケート実施 [メニューの紹介；中村管理栄養士]
3. 当院の近況報告 [中村副院長]
  - ①日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
  - ②薬剤師・尾中部長が糖尿病療養指導士に認定
  - ③管理栄養士・中村科長が日本栄養士会にて表彰
  - ④リハビリの体制を更に強化・お名前の確認
  - ⑤腰痛の手術実績
  - ⑥防災訓練 11月22日、5月22日
  - ⑦クリスマス会 12月8日
  - ⑧AED・BLS講習会 12月21日
  - ⑨岩本医師講演会 2月29日
  - ⑩中学生一日看護師体験 5月12日
  - ⑪第2回 ガーデンティーパーティ 5月16日
  - ⑫中村副院長講演会 5月26日、5月30日
  - ⑬吉田 寛先生講演会 6月13日
  - ⑭認知症研修会 6月30日
  - ⑮中学生職場体験 7月9日～11日
  - ⑯糖尿病相談会
  - ⑰満足度調査
  - ⑱「ご意見箱」より
  - ⑲当院で亡くなられた方のご報告
4. 採血用穿刺器具の取り扱いについて [木下院長]
5. 高橋淳氏講演会について [中村副院長]
6. ご意見交換
7. 古川会長ごあいさつ

### ※ ご出席者

古川 慶吾 様 (明野旭町会長)	中山 満 様 (明野日の出町会長)
湯田 国男 様 (明野さつき町会長)	松永 洋平 様 (明野高尾会長)
四井 昇 様 (患者様代表)	長尾 正晴 様 (当院 OB 代表)

### ※ 当院出席者

木下院長、中村副院長、奥野安全管理部長、鈴木看護部長  
高山事務長、瀧野センター長、里谷事務次長、安部



# ボランティアの会

会長挨拶 会長 志水 篤信 様

2004年8月に明野中央病院ボランティアの会として発足して5年がたとうとしています。  
 この間、ガーデンティーパーティやクリスマス会などの各種イベントのお手伝いや花壇の手入れなど  
 「できる時に、できる人が、できる事を」をモットーに“縁の下の力持ち”として活動してきました。  
 一人ひとりが自分のできる範囲で無理なく継続できる活動を心がけています。  
 私たちは医療者のお手伝いはできませんが、各種イベントで患者さん達に喜んで頂け、花壇をみて心が和んで  
 頂ければ、私たちの活動にとって、とてもありがたいことだと思います。  
 これからも地域住民として自分たちにできることをしていこうと思います。

## 1. 開催日

2008年 8月26日

## 2. メンバー 2008年4月現在

会長	志水 篤信 様		
副会長	赤田 久代 様	田代 千枝 様	
	磯部 都喜美 様	加来 邦子 様	
	倉住 れい子 様	小柳 巴 様	
	佐藤 邦子 様	高平 潤子 様	
	立矢 一美 様	高木 美和 様	
	三宮 麗子 様	石田 洋子 様	

## 3. ボランティア内容

- ・グリーンボランティア
- ・各種イベント企画・運営ボランティア
- ・クリスマス会
- ・ガーデンティーパーティ
- ・講演会手伝い等





## 第9回 明野中央病院ボランティア懇談会

平成20年8月26日(火)

12:30~13:30

1. 院長あいさつ
2. 昼食・検食アンケート実施 [メニューの紹介: 中村管理栄養士]
3. 当院の近況報告 [中村副院長]
  - ①日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
  - ②管理栄養士・中村科長が日本栄養士会にて表彰
  - ③リハビリの体制を更に強化・お名前の確認
  - ④中学生一日看護師体験 5月12日
  - ⑤吉田 寛先生講演会 6月13日
  - ⑥中学生職場体験 7月9日~11日
  - ⑦満足度調査
4. ボランティア活動 [佐々木部長]
  - ①菊の展示
  - ②クリスマス会 12月8日
  - ③ひなまつり飾り
  - ④第2回 ガーデンティーパーティ 5月16日
  - ⑤正面玄関やり換え
5. 高橋淳氏講演会 [中村副院長]
6. ご意見交換
7. 志水会長ごあいさつ

※ ボランティアご出席者 (順不同)

志水 篤信 様	倉住 れい子 様
赤田 久代 様	小柳 巴 様
田代 千枝 様	高木 美和 様

※ 当院出席者

木下院長、中村副院長、奥野安全管理部長、鈴木看護部長  
池田看護副部長、高山事務長、佐々木部長、里谷事務次長、安部



## 病院沿革

- 1974 (昭49) 年 1月 医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院。  
(病床数65床)  
同時に『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
- 1978 (昭53) 年11月 『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、  
分離独立
- 1997 (平 9) 年 3月 社団法人日本整形外科学会認定医制度による  
『研修施設』認定取得
- 1999 (平11) 年 5月 第一期増築工事完成 (病床数70床)  
バイオクリーンルーム設置 (手術室)  
ヘリカルCT設置
- 同 年 7月 身体障害者福祉法第19条の2の規定による  
『更正医療を担当する医療機関』の指定取得
- 2002 (平14) 年 6月 第二期増築工事完成 (病床数75床に増床)
- 同 年 7月 「居宅介護支援事業所」を開設  
MRI 設置
- 同 年 9月 パワーリハビリテーション機器導入
- 2004 (平16) 年 1月 一般病床45床、特殊疾患療養病棟 (Ⅱ) (30床)
- 同 年 3月 『臨床研修病院』指定取得 (厚生労働大臣指定)
- 2005 (平17) 年 9月 一般病床のうち、8床を『亜急性期入院医療管理料』と  
して届け出
- 同 年 10月 (財) 日本医療機能評価機構 認定病院を取得
- 2006 (平18) 年 4月 『亜急性期入院医療管理料』を8床から10床に増床  
院外処方箋発行開始
- 同 年 8月 『訪問看護ステーション・ふくろう』開設
- 同 年 9月 マルチスライスCT設置
- 2007 (平19) 年 2月 特殊疾患療養病棟 (Ⅱ) (30床) を回復期リハビリテーション病棟に変更
- 2008 (平20) 年 1月 社団法人日本手の外科学会認定医制度による  
『基幹研修施設』認定取得

2001年 第二期増築



1973年 建設中





## 病院概要 (2009年3月現在)

許可病床	一般病床 75床
標榜科目	内科／整形外科／リウマチ科／外科／消化器科／肛門科 形成外科／リハビリテーション科
専門外来	禁煙外来
施設基準	7：1入院基本料（7：1看護配置） 回復期リハビリテーション病棟入院基本料 脳血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）
研修施設	日本整形外科学会認定医制度研修施設 日本手の外科学会認定医制度研修施設
主な施設	一般病床 45床（亜急性10床含む） 回復期リハビリテーション病棟 30床 リハビリテーションセンター （作業療法室・理学療法室・言語療法室）
学会認定 専門医・指導医	日本内科学会 内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本整形外科学会 整形外科専門医 日本脊椎脊髄学会 脊椎脊髄外科指導医 日本手の外科学会 手の外科専門医 日本リウマチ学会 リウマチ専門医 日本消化器科学会 専門医 日本消化器科内視鏡学会 専門医 日本外科学会 専門医 日本神経学会 専門医



## 職種別職員数

116名

(2009年3月31日現在)

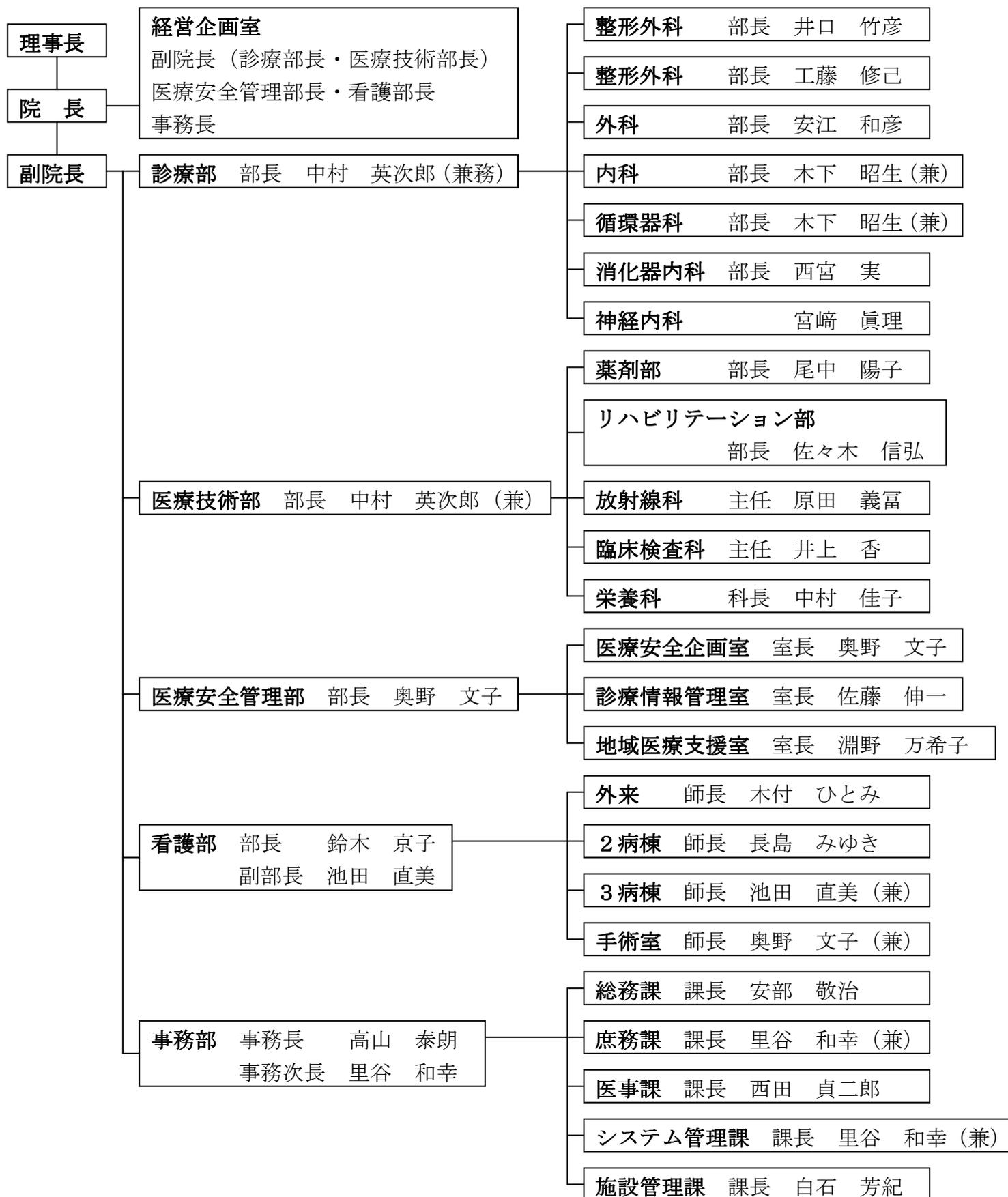
医師	7名	診療放射線技師	3名
薬剤師	2名	臨床検査技師	2名
看護師	39名	管理栄養士	1名
准看護師	16名	栄養士	1名
看護業務補助者	11名	その他技術者	1名
理学療法士	7名	医療社会事業従事者	2名
作業療法士	5名	事務職員	14名
言語聴覚士	1名	その他職員	4名

## 設備の概要

電気設備	<p>受電電圧 6,600V</p> <p>契約電圧 230kW</p> <p>負荷設備 負荷合計 700kW</p> <p>動力 300kW</p> <p>電灯 250kW</p> <p>放射線 150kW</p>
発電設備	<p>1号機 3相 220V 115kW</p> <p>対象負荷 (消火ポンプ OP室照明 診察室 ナースセンター 各階非常用コンセント)</p>
空調設備	<p>電気ヒートポンプエアコン GE</p> <p>ビル用マルチエアコン 三菱・ダイキン</p>
昇降設備	<p>寝台用 2基</p> <p>ダムウェーター 1基</p>
蒸気設備	<p>給湯ボイラー シンクロヒーター 100,000Kcal/H</p>
防災設備	<p>屋内消火ポンプ 5.5kW×1</p> <p>P型1級受信機複合盤</p>

# 組織図編成表

2009年3月31日





## 2008年度事業報告

2008年 4月 ○花見（城址公園にて） 写真①



写真①

5月 ○看護の日に中学生『一日看護師体験』 写真②

○第2回 ガーデンティーパーティを開催（ウッドデッキにて）

○春の防災訓練実施 写真③

○映画『シッコ』上映会

○第19回 糖尿病相談会

○介護施設で腰痛予防教室 写真④



写真②



写真③



写真④



- 6月 ○病院対抗フットサル大会に参加 写真⑤
- コピーライター 吉田寛先生講演会 写真⑥
- 第三回ボーリング大会実施
- 認知症研修会



写真⑤



写真⑥

- 7月 ○中学生『職場体験』を3日間実施 写真⑦
- 院内研究発表会 写真⑧



写真⑦



写真⑧

- 8月 ○慰霊祭を実施
- 第七回大分外傷研究会にて中村副院長が代表世話人を務める
- 第九回『ボランティアの会』実施
- 第十回地域交流会『ふくろうの会』実施





9月

10月 ○職員旅行 沖縄1泊2日 写真⑨ ・下関日帰り

○明野中央病院健康セミナー“華麗なるヒコーキ野郎”高橋淳さんを迎えて講演会

写真⑩



写真⑨



写真⑩

11月 ○第3回 ガーデンティーパーティを開催（ウッドデッキにて）

○バーベキュー大会（高尾山公園にて）写真⑪

○第十八回大分県リハビリテーション医学会（大分市）でリハビリテーション部  
理学療法士 安部奈緒子が研究発表 写真⑫

○第20回 糖尿病相談会

○秋の防災訓練実施 写真⑬

○危険予知トレーニング（KYT）勉強会実施

○第26回 大分県病院学会で看護師 山瀬敦子と武藤梨絵が研究発表



写真⑪



写真⑫



写真⑬



- 12月 ○クリスマス会実施 写真⑭  
○病院忘年会（オアシスタワーにて） 写真⑮



写真⑭



写真⑮

- 2008年 1月 ○新春明野寄席実施 写真⑯  
○出張健康運動教室



写真⑯

- 2月 ○衛藤病院 衛藤院長講演会  
○第十三回研究大会 in 大阪～全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会～  
にて理学療法士 加藤友也と看護師 高橋ケイ子が研究発表 写真⑰  
○第二十一回 糖尿病相談会



写真⑰

- 3月 ○病院総会



## 活 動 報 告

診 療 部 門

診療補助部門

看 護 部 門

事 務 部 門

委 員 会

そ の 他

## 内科

### 1. 内科スタッフ構成（2008年3月）

<常勤医師3名>

○木下 昭生 （院長）



【専門分野】 内科一般 高血圧 糖尿病 内分泌 循環器疾患

【資格等】

日本内科学会認定内科専門医

日本医師会認定産業医

内分泌代謝科（内科）専門医

【趣味・特技】

読書 プロ野球観戦

【患者さんへメッセージ】

患者さんとのコミュニケーションを大切にしたいと思います。

○西宮 実 （内科部長）



【専門分野】 内科一般 消化器内科 内視鏡検査・手術

【資格等】

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

【趣味・特技】 ドライブ

【患者さまへメッセージ】

専門は消化器内科です。胃・腸・肝臓・胆のう、すい臓等の病気について気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

○宮崎 眞理



【専門分野】 内科一般 神経内科

【資格等】

日本神経学会専門医

日本内科学会認定内科医

【趣味・特技】

読書（外国もののミステリー、サスペンス、ファンタジー等が好きです。もちろん“ハリーポッター”も）

【患者さんへメッセージ】

神経内科というと、どうしてもなじみがうすいと思いますが、頭痛やしびれ、歩きにくさ、めまいなどの症状を診ています。どうぞお気軽にご相談ください。

<非常勤医師 3名>

○森永 亮太郎 (大分大学医学部第二内科)

○安藤 健明 (大分大学医学部第二内科)

○大谷 哲史 (大分大学医学部第二内科)

## 2. 外来体制 (2008年3月)

	月	火	水	木	金	土
午前	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生	木下 昭生 西宮 実
午後	西宮 実 宮崎 眞理	大谷 哲史	西宮 実	安藤 健明	森永 亮太郎	

## 3. 受診患者数 (2008年4月～2009年3月)

外来患者数

新患者数	3939人
新患者数/日	13.3人
再来患者数	13597人
再来患者数/日	46.0人

## 4. 治療方針と今後の展望

内科は、糖尿病・高血圧・高脂血症等の生活習慣病の診療を中心とした一般内科とパーキンソン病、脳卒中などの診療を中心とした神経内科、さらには大分大学からの派遣での専門外来としての呼吸器内科(週2回、火曜・金曜日午後)、血液内科(週1回、木曜午後)から構成される。糖尿病は月平均約200人の外来患者で、平均HbA1cは6.5%であった。また、年数回糖尿病相談会として、患者参加の糖尿病教室を開催し、主食の量を自分で測り糖尿病食を実際に味わったり、野外で運動療法を行う体験型のプログラムとして好評を得ている。また、回復期リハビリ病棟では、内科での入院数は96人で、全体の37.3%をしめ脳血管障害が主体であった。

## 整形外科

### 1. 整形外科スタッフ構成（2009年3月）

<常勤医師3名>

○中村 英次郎（副院長）



【専門分野】 整形外科 脊椎外科 手の外科 リウマチ関節外科

【資格等】

日本整形外科学会認定専門医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本整形外科学会認定運動器リハビリ医

日本リハビリテーション医学会認定医

日本脊椎脊髄病学会指導医

日本リウマチ学会専門医

日本体育協会公認スポーツドクター

日本手の外科学会認定専門医

【趣味・特技】 スポーツ（野球）、音楽（ジャズ）

【患者さんへメッセージ】

整形外科専門医として、また皆様の家庭医的立場としてアドバイスをいたします。

ご質問等お気軽におねがいたします。

○井口 竹彦（整形外科部長）



【専門分野】 整形外科 関節外科

【資格等】

日本整形外科学会認定専門医

日本整形外科学会認定スポーツ医

日本医師会認定産業医

日本医師会認定健康スポーツ医

【趣味・特技】 スポーツ

【患者さんへメッセージ】

“思いやりの心”で患者さんの身になって治療に当たる様にしています。



○工藤 修己 (整形外科部長)



【専門分野】 整形外科 外傷 関節外科 脊椎外科

【資格等】

日本整形外科学会認定専門医

日整会認定脊椎脊髄病医

【趣味・特技】 ワイン、ガーデニング

【患者さんへメッセージ】

これまで主として関節疾患、外傷、脊椎疾患、リウマチなどの治療に携わって参りました。

## 2. 外来体制 (2009年3月)

	月	火	水	木	金	土
午前	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎	中村 英次郎 工藤 修己
午後	井口 竹彦	井口 竹彦	井口 竹彦	井口 竹彦	井口 竹彦	

## 3. 受診患者数 (2008年4月～2009年3月)

外来患者数

手術件数

623件

新患者数	4590人
新患者数/日	15.5人
再来患者数	18634人
再来患者数/日	63.1人

入院内訳 (530件)

上肢

肩関節形成術 20件

骨接合術 前腕 26件

脊椎

椎間板摘出術 41件

椎弓形成術 42件

後方固定術 29件

下肢

骨接合術 大腿 27件

人工骨頭挿入術 15件

人工股関節置換術 14件

人工膝関節置換術 65件

膝関節鏡 72件

前十字靭帯再建術 11件

その他 168件



#### 4. 治療方針と今後の展望

整形外科は、整形外科専門医3名による診療体制で、急性期疾患および慢性期疾患また回復期リハビリテーション関係と幅の広い診療を行っている。大分大学医学部の整形外科教室及び麻酔科教室には特に厚い応援をいただきながらの診療で、この場を借りて御礼申し上げます。2007年7月より工藤医師が新たに加わり診療の質が大きく向上した。特に変形性関節症に代表される慢性期関節関連手術（特に人工関節）や半月損傷、前十字靭帯損傷などのスポーツ外傷、また関節鏡を利用した肩関節手術などの症例がたいへん多くなっている。また腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症に対する顕微鏡手術、脊椎固定術も多々行っている。モットーとしては、やや時代に逆行する感もあるが、患者さんが直ることが最重要で手術に代表される急性期治療のみならず術後リハビリや在宅での生活までも考えた治療を心がけている。つまり厚労省指導の急性期、慢性期などの机上の病院機能分類の充実も大切ではあるが、患者さん満足度をもっとも重視し診療をすることが重要と考えている。幸い当院には急性期、亜急性期及び回復期リハビリテーションの3種類の病床がありこの3つの病棟区分を駆使して少しでも患者さん満足度が向上するように努力している。 外来患者さんは、明野周辺在住の方のみならず、市内外遠方より尋ねて来られる方も多く、その年齢層も0歳児から100歳の超高齢者まで非常に多岐にとんでいる。外来患者さんの増加にともない外来待ち時間の短縮が早急な課題であり、予約外来等の充実で一分でも早く診療が進むように努力している。近隣の整形外科の先生方のみならず、内科、精神科の先生方にもたいへんお世話になっております。本当に感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

#### 周術期管理について

大分大学医学部麻酔学教室のご厚意で、たいへんありがたいことに2009年4月より本院へ待望の麻酔科常勤医が着任した。以前より当院の整形外科手術は人工関節や脊椎手術が多く、また高齢者の骨折など、手術侵襲に伴う合併症の発生や持病の悪化など、さらには深部静脈血栓症などの問題などが危惧されることであった。手術中の麻酔のみならず、周術期（手術前後）の治療、予防管理をさらに徹底することは大きな課題であった。麻酔専門医の常勤医：森 正和先生を迎えることができたことは本当に大きな喜びであり今後診療の幅、質が向上することは疑いない。今後さらに周術期の安全管理、疼痛の管理など充実を計っていきたい。



## 消化器科

### 1. スタッフ構成（2009年3月）

<常勤医師2名>

○西宮 実 (内科部長)



【専門分野】 内科一般 消化器内科 内視鏡検査・手術

【資格等】

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

【趣味・特技】 ドライブ

【患者さまへメッセージ】

専門は消化器内科です。胃・腸・肝臓・胆のう、すい臓等の病気について気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

○安江 和彦 (外科部長)



【専門分野】 外科

【資格等】

日本外科学会外科専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

【趣味・特技】 釣り、料理

【患者さんへメッセージ】

ていねいな説明を心がけ、安心、納得して治療を受けて頂けるよう、努力します。

### 2. 外来体制（2009年3月）

	月	火	水	木	金	土
午前	西宮 実 安江 和彦	西宮 実 安江 和彦	西宮 実	西宮 実 安江 和彦	安江 和彦	西宮 実 安江 和彦
午後	西宮 実 安江 和彦	安江 和彦	西宮 実	安江 和彦	安江 和彦	

### 3. 治療方針と今後の展望

当院消化器科は内科医・西宮実と外科医・安江和彦の2名で診療にあたっております。取り扱った疾患は消化管疾患（逆流性食道炎、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクテリウム感染、胃・大腸ポリープ、感染性胃腸炎、クローン病、腸閉塞、大腸憩室症、胃・大腸癌術後など）、肝・膵・胆疾患（慢性肝炎、肝硬変、胆石胆嚢炎、閉塞性黄疸、急性・慢性膵炎）などでした。その他、各種悪性疾患の終末期緩和治療も行っていました。内視鏡検査においては上部消化管が381件、下部消化管が86件、ERCPが4件でした。また、内視鏡的胃瘻造設術9件、胃瘻交換41件でした。その他の処置としてポリペクトミー、胃癌粘膜切除術、閉塞性黄疸に対するドレナージ、ステント留置術、総胆管結石除去術、止血術等を行っております。



# リハビリテーション部

## 1. 概要

2007年2月に回復期リハビリテーション病棟が開設し、言語聴覚士1名を補充することにより総合リハビリテーションの提供が可能となる。

2008年4月には、回復期リハビリテーション病棟で成果主義の導入があり、入院料が2ランク化し、回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準を取得した。

また、理学療法士1名、作業療法士2名を補充することが出来、脳血管疾患等リハビリテーション料(I)の施設基準の取得が可能となる。

## 2. スタッフ構成・勤務体制

### ○スタッフ（計16名）

- ・理学療法士 8名（佐々木、安部、後藤、福留、生野、加藤、大嶋、紺野）
- ・作業療法士 5名（淵野、安部（奈）、村上、後藤（順）、安本）
- ・言語聴覚士 1名（松本）
- ・健康運動指導士 1名（嶋田）
- ・助手 1名（坂本）

### ○勤務体制

- |         |  |
|---------|--|
| 2階病棟・外来 | 専従・・・理学療法士3名、作業療法士2名                         |
| 回復期     | 専従・・・理学療法士4名、作業療法士3名<br>兼務・・・理学療法士1名、言語聴覚士1名 |

### ○2008年度の取り組み

- ・リハビリテーション実施患者数：1021人
- ・疾患別患者数
 

運動器リハビリテーション	887人
脳血管疾患等リハビリテーション	161人
呼吸器疾患リハビリテーション	3人
- ・療法科別
 

理学療法	802人
作業療法	472人
言語聴覚療法	67人
- ・回復期リハビリテーション実施患者数：245人
- ・疾患別患者数
 

運動器リハビリテーション	143人
脳血管疾患等リハビリテーション	111人





・療法科別

理学療法	244 人
作業療法	169 人
言語聴覚療法	49 人

○2009 年度の目標

目標：早期に目標設定を確立し、チームアプローチにより円滑な在宅復帰を目指す。

(基本方針)・総合実施計画書の早期作成および定期的な見直しを行う

- ・ FIM を活用し、「している ADL」をめざす
- ・ 専門知識・技術の修得に努める

○学会・研修会参加実績

- ・ 第 18 回大分県リハビリテーション医学会  
2008 年 11 月 9 日 演題発表 O.T. 安部奈緒子
- ・ 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第 13 回研究大会  
2009 年 2 月 14 日、15 日 演題発表 P.T. 加藤友也

○2008 年度実習生の受け入れ

理学療法	5 月 12 日～7 月 12 日	大分リハビリテーション専門学校	1 名
	8 月 4 日～10 月 11 日	藤華医療技術専門学校	1 名
	2 月 3 日～3 月 14 日	藤華医療技術専門学校	1 名
作業療法	4 月 22 日、5 月 13、20、27 日	大分リハビリテーション専門学校	1 名
	6 月 17、24 日、7 月 1、8 日	大分リハビリテーション専門学校	1 名
言語聴覚	7 月 14 日～9 月 5 日	長崎リハビリテーション学院	1 名
(合計 6 名)			

○総括

平成 18 年 4 月に疾患別リハビリテーションの概念に基づいた診療報酬の改定と算定日数の上限が設定され、それから 2 年が経過した。今回の診療改定では、疾患別リハビリテーション料の見直しと逓減制の廃止、ADL 加算の廃止と早期リハビリテーションの新設、算定日数上限の実施後の規定緩和などが制定された。また、回復期リハビリテーション病棟では、入院料の 2 分化と重症患者回復病棟加算が新設され成果主義の導入がなされた。

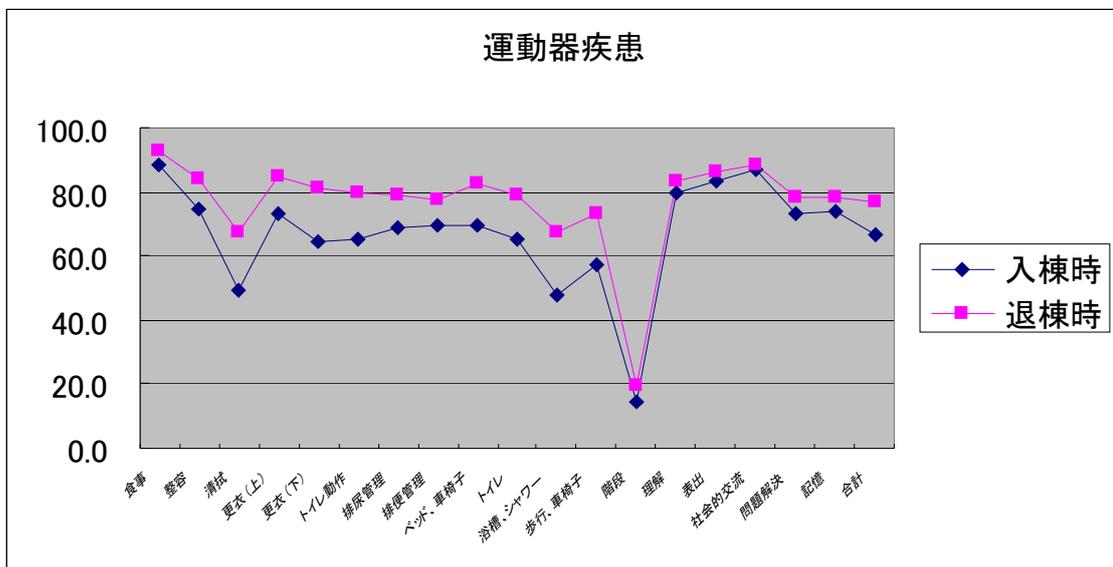
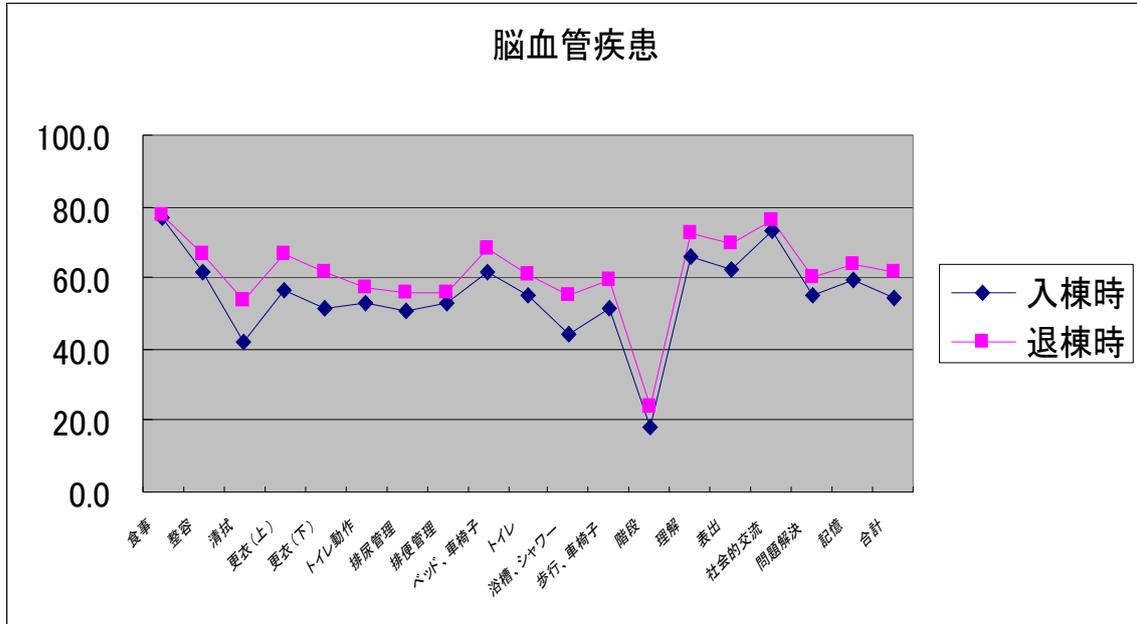
当院では、以下の実績により回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の施設基準と重症患者回復病棟加算も取得することが出来た。

回復期リハビリテーション病棟の実績としては、入院患者数 245 名、在宅復帰率は 83.5%であった。ADL 改善では、脳血管疾患：入院時 68.8、退院時 77.2、運動器疾患：入院時 84.3 点、退院時 96.7 点であった。(ADL 評価は、FIM を使用)



## 08年6月～09年3月退院患者 FIM疾患別平均点及び疾患別グラフ

(満点(項目別7点、合計126点)に対する割合)





## 診療情報管理室

### 1. 概要

- ・入院診療録等の回収・点検・貸出 ・ I C D - 10 によるコーディング・統計作成業務
- ・院内情報システムの保守・管理 ・ 開示対応・個人情報保護法に関する窓口業務

### 2. スタッフ構成

2名(診療情報管理士 1名)

### 3. 2008年度の取り組みとその成果

#### 1.カルテの質の向上

全退院カルテに監査を行った。監査内容は情報管理委員会にて報告し、委員会の中でもカルテの監査を行い監査の徹底を図った。またカルテの仕切りを新規作成した。それに伴い診療録編綴規程の見直しをおこなった。

#### 2.入院カルテを退院後14日以内に管理室へ保管する

7月より達成率を表にまとめて情報管理委員会にて発表した。平均73%と数字上では良くなかった。来年度は数字で目標を明確にしたいと考える

☆08年7月～09年3月退院サマリー達成率								
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
68.2	71.4	75.3	83.5	79.8	77.0	68.3	68.6	66.3

### 4. 2009年度の重点目標

達成率の年間平均80%以上と設定する。各関係部署の会議に積極的に参加し達成率の向上を目指す。  
08年度学会等の参加が少なかったため、日本診療録情報管理学会に入会し学会参加を行いたい。

### 5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

- 09年1月 日本病院会九州ブロック研修会 参加 1名
- 08年11月 大分県病院学会 参加 2名



## 薬剤部

### 1. 概要

院内調剤、服薬指導

### 2. スタッフ構成

薬剤師 2名

### 3. 2008年度の取り組みとその成果

入院患者の内服薬を薬剤部にて一元管理することにより、患者の内服状況、残薬確認をスムーズに行うことができた。また、その情報を基に、各部署への情報提供を行い、チーム医療への貢献を果たした。  
(例えば、抗凝固薬の内服状況を栄養科に報告することにより、併用禁止の食材を提供しないようにする、等)

### 4. 2009年度の重点目標

- マニュアルの整備と見直し
- 各部署の配置薬の内容を見直す

### 5. まとめ

各部署の協力により、入院患者の内服薬管理を一元的に行えるシステムが確立、浸透してきた。これにより、術前の内服薬管理や、併用禁止食材などの取り扱いもスムーズに行えるようになってきた。このシステムをこのまま継続していきたいと考えている。  
各部署に配置している薬剤のうち、医療技術の進歩とともに使用頻度が低くなった薬品などを見直し、在庫管理のスマート化を図っていきたい。



## 臨床検査部

### 1. 概要

検体検査：生化学・血液一般・血液型・交差適合試験・不規則抗体スクリーニング

尿一般・尿沈渣・関節液・髄液一般・妊娠反応・血液ガス・感染症定性検査（HBs抗原・HBs抗体・HCV抗体・TPHA）・凝固検査（PT）  
トロポニンテスト

生理検査：心電図・負荷心電図（マスター）・ホルター心電図・ホルター解析・肺機能  
筋電図・体性感覚誘発電位

### 2. スタッフ構成・勤務体制

スタッフ構成：臨床検査技師 2名・衛生検査士 1名

勤務体制：日勤（08：30～17：30）

臨床検査技師 1名で主に生化学・免疫学検査を担当  
（09：00～18：00）

臨床検査技師 1名で主に血液学・生理学・一般検査を担当

※ 臨床検査技師は1週間ごとに勤務交代を行う

※ 臨床検査技師が1名の場合は全業務を担当する

（09：00～12：30）

衛生検査士 1名で一般検査を担当

夜間待機（18：00～08：30）

臨床検査技師 1名

※ 時間外の緊急対応に備えて待機用の携帯電話を所持している。

呼び出し内容に応じ、迅速かつ適切な対応を行う。

### 3. 2008年度の取り組みとその成果

#### ① 生化学汎用機器の入れ替え

8月に生化学の機械入れ替え作業を行う。また、新しい機器の導入に伴って検査室の配置を大きく変更した。

これを機に検査手順マニュアル改訂を行い、新入職員や機能評価に向けて大きく活用出来た。

#### ② その他の取り組み

特定健診への対応として検査セット項目の見直しをオーダーシステムなど、円滑に行えるよう関係部署と取り決めを行う。



#### 4. 2009年度の重点目標

- ① 検査技師として個々に技術の向上に努め、検査室としての役割を果たす  
新たな職員と共に原点に戻り、外部研修会への参加を心掛ける
- ② 検査機器管理など安全性を追求した業務の見直しと、マニュアル改訂  
新しく導入した機器の機器管理マニュアルの新規作成と改訂を行う

#### 5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

- ・第57回 日本医学検査学会（1名）

#### 6. まとめ

2007年度に続き2008年度もスタッフ構成に変化があり、また主要な生化学機器の入れ替えやそれに伴った検査室の配置も大きく変わった。

それによって、円滑な検査業務に反映出来るような環境が整ったのではないかと考える。この環境を活かして迅速な対応、技術向上に繋げたい。





生化学・免疫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
TP	425	404	390	472	463	412	450	378	410	390	381	422	4997
Alb	285	244	257	299	254	244	300	237	279	253	246	281	3179
T-Bil	336	339	324	396	381	344	383	308	325	336	312	347	4131
LDH	427	401	390	468	458	414	451	380	413	389	377	419	4987
AST	437	475	406	483	473	430	468	410	439	411	391	455	5278
ALT	437	475	406	483	473	430	468	409	439	411	391	455	5277
γ-GTP	231	271	232	264	218	223	296	229	255	232	216	266	2933
ALP	342	344	321	395	382	344	382	312	328	335	311	346	4142
CPK	186	201	173	241	266	213	194	192	195	205	177	197	2440
T-cho	200	242	196	216	180	164	229	171	192	176	156	202	2324
TG	200	243	194	212	178	169	228	173	204	177	156	219	2353
HDL-cho	195	239	190	211	175	168	228	172	202	172	154	217	2323
Glu	564	590	540	598	577	550	591	519	564	537	530	577	6737
BUN	415	393	378	469	456	400	445	366	399	381	380	418	4900
Cr	415	392	379	469	455	401	445	366	399	379	380	417	4897
UA	179	167	168	208	165	152	212	148	166	160	150	187	2062
血中 Amy	198	195	187	248	268	222	213	200	210	212	191	210	2554
CRP 定量	464	458	449	553	511	475	509	418	468	442	438	480	5665
CRP 簡易法	12	13	11	17	18	16	7	17	13	18	11	12	165
RA 定性	15	14	8	7	14	9	13	7	5	10	11	13	126
Na	404	384	371	464	454	400	435	353	391	369	370	399	4794
K	404	384	370	464	454	400	435	354	391	369	371	400	4796
Cl	404	384	370	455	452	398	435	352	391	39	369	399	4448
Ca	168	160	157	194	152	141	200	132	157	149	142	166	1918
HBs 抗原(定性)	91	101	100	106	104	94	109	93	113	108	76	106	1201
HBs 抗体(定性)	7	5	10	2	5	6	6	1	4	6	6	13	71
HCV 抗体	96	102	99	107	102	94	110	94	114	109	77	103	1207
TPHA	87	91	88	102	93	83	102	89	100	101	72	94	1102
インフルエンザ	36	6	0	0	0	0	2	11	123	313	103	46	640
トロポニンT	1	3	3	4	6	3	2	2	4	7	5	3	43
HbA1c	186	187	190	191	199	191	195	191	215	198	197	220	2360
血糖負荷試験	3	4	3	3	2	2	2	3	3	1	6	10	42

血液学検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CBC	533	591	533	620	564	540	567	496	543	516	503	552	6558
出血時間	65	57	72	85	77	61	72	70	81	70	61	80	851
凝固時間	65	57	73	85	77	61	72	70	81	70	61	80	852
血液型	37	37	35	45	45	35	41	39	42	40	31	42	469
不規則抗体	6	5	4	0	2	5	4	1	1	5	6	8	47
クロスマッチ	7	4	6	0	2	10	7	2	2	5	12	11	68

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血ガス	10	8	11	18	14	12	13	8	12	18	15	21	160

一般検査

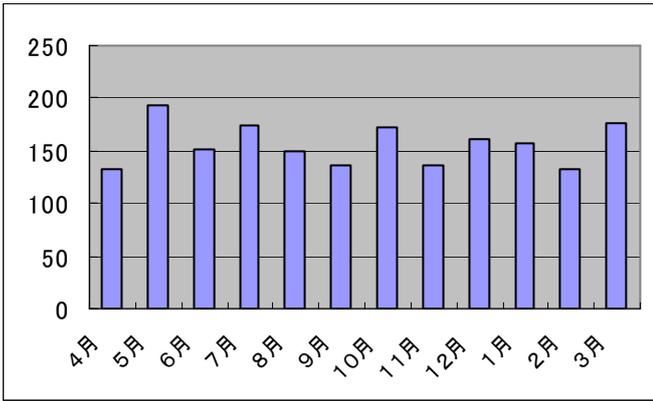
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
尿一般	366	346	372	421	382	368	420	360	470	382	390	411	4688
尿チンサ	104	97	101	129	110	116	136	99	99	107	112	95	1305
尿中Alb・Cr	63	57	36	41	54	54	49	41	49	43	54	47	588
関節液	2	2	2	6	6	0	9	4	2	2	2	6	43

生理学検査

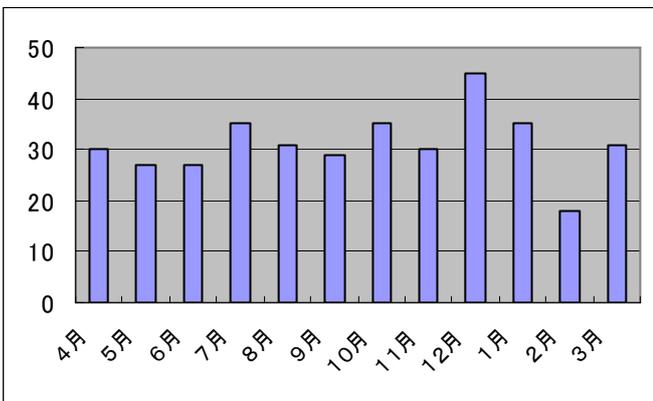
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	133	193	152	174	149	136	172	137	161	157	133	177	1874
3分間	0	8	1	2	0	5	3	3	5	4	3	4	38
ホルター心電図	2	1	2	2	1	2	2	0	0	1	3	2	18
スパイロ	30	27	27	35	31	29	35	30	45	35	18	31	373
SEP	7	8	11	10	13	13	12	12	10	10	8	9	123
MCV	0	0	2	1	0	4	1	1	4	0	0	3	16



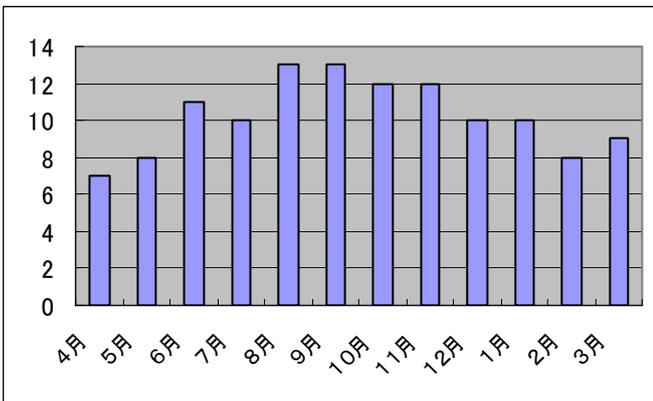
心電図



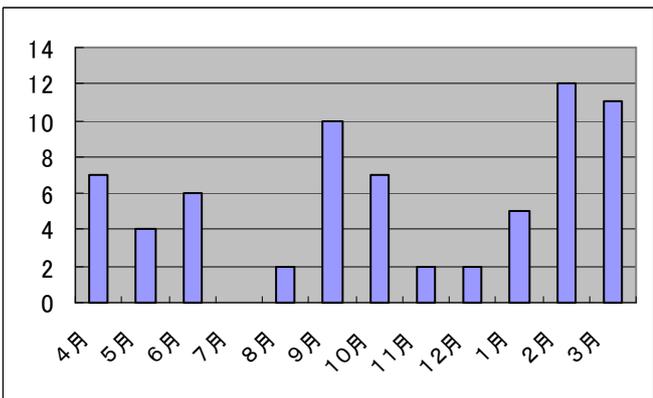
肺機能



SEP



クロスマッチ



# 放射線科

## 1. 概要

2008年度は、フィルムレスへ向け取り組み、PACS などによる情報の共有を図った。また、放射線機器の管理・保守の充実を今後も引き続き行う。

## 2. スタッフ構成

放射線技師 3名

## 3. 2008年度の取り組みとその成果

フィルムレスへの移行をスムーズに行え、PACS などによる情報の活用と共有、確認が正確にできるようになった。

また、放射線機器の管理・保守の充実を今後も引き続き行う。

## 4. 2009年度の重点目標

1. 個々の技術向上
2. 個々の知識向上
3. 業務効率化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般	891	888	918	1033	897	922	942	816	960	843	797	944	10,833
透視	20	23	34	33	21	27	24	28	25	18	19	25	297
CT	125	113	118	125	121	120	137	121	119	116	122	147	1,484
MRI	119	122	126	125	124	126	139	128	114	117	116	147	1,503
Dr.net	30	26	30	38	41	30	33	28	24	33	42	29	384

## 5. まとめ

フィルムでの診療を行っていた昨年度と比べ、フィルムレスに変更した2008年度は検査に掛かる時間を大幅に短縮できた。また、検査機器の管理を充実させることができた。今後も保守など迅速な対応が取れるようにする。





# 栄養科

## 1. 概要

給食管理・・・食数管理、献立作成、食材発注、在庫管理等  
衛生管理・経営管理・労務管理・報告書作成・栄養食事指導・栄養管理計画書の作成

## 2. スタッフ構成

管理栄養士（1名） 栄養士（1名） 調理師（2名） 調理員（2名、午後パート1名含む）  
人材派遣会社より 調理員（3名、午前パート1名含む）

## 3. 2008年度の取り組みとその成果

① 摂取量をあげ、治療効果を高める食事を提供する

② 誤配膳を防ぎ、安心 安全な食事を提供する

全入院患者の栄養計画書の作成 1187 件

栄養指導件数 53 件

## 4. 2009年度の重点目標

- ① 全入院患者の栄養計画書の作成、評価、継続
- ② 栄養相談や栄養指導、後期高齢者の退院時指導件数のアップ
- ③ 摂取状況の把握（昼食時訪室）
- ④ チーム医療への参画（NST、褥瘡回診、糖尿病相談会）

## 5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

< 実習生の受け入れ >

8月 別府大学短期大学部食物栄養科（2名 2週間）

2月 別府大学食物栄養学部食物栄養学科（3名 3週間）

< 学会・研修会 >

6月 大分県調理師試験準備講習会（薬剤師会館）において栄養学の講義をする  
（社）日本栄養士会通常総会に出席 日本栄養士会より表彰される

8月 第15回国際栄養士会議参加（横浜）  
保健所研修会参加（大分市）

9月 特定保健指導担当者研修会修了

10月 調理師研修会参加（大分市）

11月 臨地実習事前講演『総合栄養マネジメント演習』（別府大学）

12月 第8回栄養士学会参加（大分市）

1月 保健所研修会参加（大分市）



実務研修会参加 (大分市)

第 24 回日本静脈経腸栄養学会参加 (鹿児島)

## 6. まとめ

満足度の高い医療を支える栄養管理を目指し、治療の一環としての食事を提供する事はもとより、個々の患者の嗜好や特性に配慮し一食一食喜んで食べて頂ける食事の提供に取り組んでいます。また病院の職能組織としてモチベーションを常に考えた活動を基本に、安心・安全な食事の提供、危機管理の責務を果たしていくことが重要と考え、職員教育の充実を目指しています。



## 医療安全管理室

### 1. 概要

医療事故防止等の安全管理業務、感染対策に関する業務、医薬品の安全使用に関すること、医療機器の保守点検・安全使用に関する体制整備を推進する役割を担う。

### 2. スタッフ構成・勤務体制

医療安全管理者 1名（看護師）

### 3. 2008年度の取り組みとその成果

安全管理室の理念 「安全文化を根付かせ 事故防止に努める」

基本方針

安全マニュアルの見直しと周知

ミニ安全教育の実施

転倒転落事故の低減

活動実績

安全マニュアルの見直しと周知

#### ① 「自己血輸血マニュアル」

自己血の保管が血液センターでできなくなったため、検査室及び病棟師長・外来師長と共に、また福岡自己血輸血研究会編の「自己血輸血ハンドブック」を参照しながら、自己血輸血フロー・自己血輸血指針・自己血輸血マニュアル・自己血輸血採血手順書・貯血、ご入院の計画書のみなおしをおこなった。エボジン I V→エスポー I Mの変更も周知させた。

#### ② 「離床センサー（マッタ君）使用マニュアル」

転倒転落事故の原因のひとつに、離床センサーを適切に使用していなかったり、電源をON・OFFが適正に施行されていなかったのを見直しと周知を図った。

#### ③ 「点滴注射施行マニュアル」

三重県の某病院で起こった点滴の作り置きによる医療事故に鑑み、特に点滴作成時点に重点を置いて見直しを行った。

#### ④ 「受付・外来対応マニュアル」

気分不良患者へのきめ細かい対応について受付・総合案内・外来の連携を強化するのを見直した。

#### ⑤ 「造影CTチェックリスト」

造影CT時に造影剤漏洩による重大事故を防止する為にチェックリストを作成した。

#### ⑥ 「患者取り違え防止パンフレット」

患者取り違え防止は医療事故防止のための全国共同行動目標の一つでもあり当院でも外来診察室や検査室・リハビリテーション室等に掲示した。



#### ミニ安全教育

- ①恒例の新入職員オリエンテーションにて、安全管理・感染対策についてミニ教育を行った。
- ②師長・主任会議にて安全管理についての議題を提供した
- ③看護部会では特に重要と思われる安全情報について解説した。(ハイリスク薬等)
- ④年2回の安全管理教育の企画を行った。
- ⑤月朝礼にて安全管理の啓蒙を行った。

#### 転倒転落事故の低減

- ①離床センサーの適正使用について、指導し回診時にチェックした。
- ②2階・3階の踊り場に転落防止の柵を設置
- ③抑制帯の整備

#### その他

- ①全国規模で問題になった微量採血器具の使い回しによるC型肝炎ウイルス感染について臨時会議(院長・事務長・安全管理室長・看護部長・薬剤部長)を開催した。  
適正器具の選定・問い合わせマニュアルの作成・ポスターの作成等を行った。
- ②患者誤認防止について
  - ・早朝カンファレンスにて安全管理室より同姓患者・同名患者を発表し注意を喚起してきた。
  - ・誤認防止策として「患者さん自ら名乗っていただく」「リストバンドでの確認」「ベッドネームでの確認」を励行
  - ・月初めに入院患者のリストバンド・ベッドネームのチェックを行った。

## 4. 2009年度の重点目標

目標 「職員の安全管理意識の定着を図る」

1. インシデントレポートの活用  
安全マニュアルを各部署2個以上見直す。
2. 安全教育の実施  
年4回以上実施(安全管理・感染対策・医薬品の安全な取り扱い・医療機器)
3. 転倒転落事故の低減  
原因を分析し、各々の対応マニュアルを整備

## 5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

日本マネジメント学会大分地方会・医療連携フォーラム・転倒予防教室研究会・第1回大分県医療ガスセミナー・テルモメディカルセミナー・医療安全に関するワークショップ



## ちょっと一息①

花日記 Part I ～2階ウッドデッキから～

2階のウッドデッキにはボランティアの方々が育てた四季折々の花が咲いています。  
傍らの「花日記」には多くの書き込みが・・・

### “病気になって知る健康のありがたさ”

今回病気になって日頃の健康のありがたさをヒシヒシと感じました。

いかに常日頃の健康管理が必要であるか。

そして院長先生、諸先生方、看護師の皆様方の献身的なる診察・治療又病人の身になって親切にしかも優しく応対して下さい、感謝するのみです。

自分の人生の中で今日のこの気持ちは決して忘却は致しません。

一日も早く元気になって人様の役に立ち、手助けが出来る己になろうと心を新たにしました。

他人の心と身体の痛みが分かる人間になろうと自分に強く言い聞かせました。

素直にありがとうと言える自分「我」「執着」「慢心」の心を捨て、何時も感謝の気持ちを持ち続け、他人のために役立つ人間に成長しようと決意した今日です。



### “世界一の嫁に感謝”

今日は今が満開の紫陽花の花を持って来て下さり、真っ赤な花を花瓶に挿してくれた。

今頃、我が家の庭の廻りには色とりどりの紫陽花が咲き乱れているだろう・・・と

思い浮かべていた矢先のこと、嫁が自分の今の気持ちを察したのか？

こうしたチョットの気配りの出来る嫁に涙の出る程の尊敬と嬉しさを感じ幸せな自分だろうと病床より心に手を合わせ感謝致しました。

家庭では家事全ての仕事、育児と多忙な中、こうして何度も病院に来て見舞ってくれこの気持ちだけで励まされて元気になりそうです。

我が家の嫁さんほんとうにありがとう。